

問 1 医薬品に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品が人体に及ぼす作用は複雑、かつ、多岐に渡り、そのすべてが解明されていないため、好ましくない反応（副作用）を生じる場合がある。
- b 一般用医薬品は、医療用医薬品と比較してリスクが相対的に低いと考えられるため、添付文書や製品表示に副作用の情報は記載されていない。
- c 医薬品は、人の疾病の診断、治療若しくは予防に使用されること、又は人の身体の構造や機能に影響を及ぼすことを目的とする生命関連製品である。
- d 医薬品は、人の健康に密接に関連するものであるため、高い水準で均一な品質が保証されていなければならない。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	誤	正	誤	誤
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	正	正

問 2 次の記述は、医薬品のリスク評価に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a ヒトを対象とした臨床試験における効果と安全性の評価基準には、国際的に Good Vigilance Practice (GVP) が制定されている。
- b 一般に、少量の医薬品の投与により、胎児毒性や組織・臓器の機能不全を生じることはない。
- c 医薬品の効果とリスクは、薬物曝露時間と曝露量との積で表現される用量 - 反応関係に基づいて評価される。
- d 医薬品は、食品よりもはるかに厳しい安全性基準が要求されている。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問3 食品に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a いわゆる健康食品は、「花粉症を改善する効果がある」と表示することができる。
- b 「栄養機能食品」は、各種ビタミン、ミネラルに対して「栄養機能の表示」ができる。
- c 「機能性表示食品」は、疾病に罹患<sup>り</sup>していない者の健康の維持及び増進に役立つ旨又は適する旨（疾病リスクの低減に係るものを除く。）を表示できる。
- d 健康補助食品（いわゆるサプリメント）の中には、医薬品と類似した形状で発売されているものも多いが、健康被害を生じた例は報告されていない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	正	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	誤	誤	正

問4 医薬品の副作用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、十分注意して適正に使用された場合であっても、副作用を生じることがある。
- b 副作用は、異変を容易に自覚できるものばかりである。
- c 通常、一般用医薬品は、重大な副作用が少ないため、副作用の兆候が現れたとしても基本的に使用を継続する。
- d 一般用医薬品の販売等に従事する専門家においては、副作用の状況次第では、購入者等に対して、速やかに適切な医療機関を受診するよう勧奨する必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問5 次の記述は、アレルギーに関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a アレルギーには、体質的・遺伝的な要素がある。
- b 医薬品の中には、鶏卵や牛乳等を原材料として作られているものがあるため、それらに対するアレルギーがある人では使用を避けなければならない場合がある。
- c 普段、医薬品にアレルギーを起こしたことがない人であれば、医薬品の成分がアレルギーになることはない。
- d 外用薬によって、アレルギーが引き起こされることはない。

1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

問6 医薬品の不適正な使用と有害事象に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は、購入者等の誤解や認識不足のために適正に使用されないことがあるため、販売時における専門家の関与が特に重要である。
- b 医薬品の販売等に従事する専門家においては、必要以上の大量購入や頻回購入などを試みる不審な購入者等には慎重に対処する必要があり、積極的に事情を尋ねることが望ましい。
- c 医薬品は多く飲めば早く効くため、定められた用量を超える量を服用しても、有害事象につながる危険性はない。
- d 一般用医薬品には、習慣性のある成分は含まれていない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	誤	誤

問7 次の記述は、医薬品と食品の相互作用に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 酒類（アルコール）をよく摂取する者は、一般的に、アセトアミノフェンが通常よりも代謝されにくい。
- b カフェインのように、食品中に医薬品の成分と同じ物質が存在する場合、それを含む医薬品と食品と一緒に服用すると過剰摂取になることがある。
- c 食品（ハーブ等）として流通している生薬成分等については、生薬成分が配合された医薬品の効き目や副作用を増強させることはない。
- d 外用薬や注射薬であっても、食品によって医薬品の作用や代謝に影響を受ける可能性がある。

1（a、b）      2（a、c）      3（b、d）      4（c、d）

問8 小児と医薬品に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 小児は、血液脳関門が未発達であるため、中枢神経系に影響を与える医薬品で副作用を生じやすく、加えて、肝臓及び腎臓の機能も未発達であるため、副作用がより強く出ることがある。
- 2 乳児向けの用法用量が設定されている医薬品であれば、乳児は医薬品の使用により状態が急変することはない。
- 3 医薬品の使用上の注意において、小児という場合には、おおよその目安として、7歳未満の年齢区分が用いられている。
- 4 医薬品の販売に従事する専門家は、保護者等に対して、小児向けの用法用量の設定の無い一般用医薬品では、量を減らして小児へ与えるよう説明をするべきである。

問9 高齢者と医薬品に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 一般に高齢者は生理機能が衰えつつあり、特に、肝臓や腎臓の機能が低下していると医薬品の作用が強くなりやすく、若年時と比べて副作用を生じるリスクが高くなる。
- 2 高齢者は、喉の筋肉が衰えて飲食物を飲み込む力が弱まっている（嚥下障害）場合があり、内服薬を使用する際に喉に詰まらせやすい。
- 3 高齢者は、医薬品の取り違えや飲み忘れを起こしやすいなどの傾向があり、医薬品の安全使用の観点からの配慮が重要となることがある。
- 4 医薬品の使用上の注意においては、おおよその目安として75歳以上を「高齢者」としている。

問 10 次の記述は、妊婦若しくは妊娠していると思われる女性又は母乳を与える女性（授乳婦）に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 母体が医薬品を使用した場合に、血液-胎盤関門によって、医薬品の成分の胎児への移行がどの程度防御されるかは、全て解明されている。
- b ビタミンA含有製剤を、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされている。
- c 便秘薬の中には、配合成分やその用量によっては流産や早産を誘発するおそれがあるものがある。
- d 授乳婦が使用した医薬品の成分は、乳汁中に移行することはない。

1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

問 11 医療機関で治療を受けている人等に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 生活習慣病等の慢性疾患を持ち、治療を受けながら日常生活を送る生活者が一般用医薬品を使用することによって、症状が悪化したり、治療が妨げられることがある。
- b 医療機関・薬局で交付された薬剤を使用している人が一般用医薬品を購入する場合、登録販売者は、その薬剤を処方した医師又は調剤を行った薬剤師に相談するよう説明する必要がある。
- c 過去に医療機関で治療を受けていた（今は治療を受けていない）という場合、登録販売者は、一般用医薬品の購入者等が使用の可否を適切に判断することができるよう情報提供することが重要である。
- d 医療機関での治療を特に受けていない場合、一般用医薬品の使用について、特に注意する必要はない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問 12 次の記述は、医薬品の品質に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品に配合されている成分が、光（紫外線）によって品質の劣化を引き起こすことはない。
- b 医薬品が保管・陳列される場所については、清潔性が保たれるよう留意する必要がある。
- c 一般用医薬品は、家庭における常備薬として購入されることも多いことから、外箱等に記載されている使用期限から十分な余裕をもって販売等がなされることが重要である。
- d 医薬品の外箱等に表示されている使用期限は、開封・未開封を問わず、品質が保持される期限である。

1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

問 13 一般用医薬品の選択及びセルフメディケーションに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 近年、専門家による適切なアドバイスの下、身近にある一般用医薬品を利用するセルフメディケーションの考え方がみられるようになってきている。
- b 症状が重いとき（例えば、高熱や激しい腹痛がある場合、患部が広範囲である場合等）に、一般用医薬品を使用することは、一般用医薬品の役割にかんがみて、適切な対処とはいえない。
- c 一般用医薬品を一定期間若しくは一定回数使用しても、症状の改善がみられない又は悪化したときには、医療機関を受診して医師の診療を受ける必要がある。
- d セルフメディケーションの主役は、一般の生活者であるため、専門家からの情報提供は、単に専門用語をわかりやすい平易な表現で説明するだけでよい。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	誤	誤	正
5	正	正	正	誤

問 14 次の記述は、一般用医薬品の販売時のコミュニケーションに関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 購入者等が適切な医薬品を選択し適正に使用していくために、登録販売者は、可能な限り、購入者側の個々の状況の把握に努めることが重要となる。
- b 一般用医薬品の場合、必ずしも情報提供を受けた当人が医薬品を使用するとは限らないことを踏まえ、販売時のコミュニケーションを考える必要がある。
- c 情報提供を受ける購入者等が医薬品を使用する本人で、かつ、現に症状等がある場合は、言葉によるコミュニケーションから得られる情報以外は、状況把握につながる重要な手がかりとならない。
- d 購入者等が医薬品を使用する状況は随時変化する可能性があるが、販売後のコミュニケーションの機会を継続的に確保する必要はない。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 15 医薬品の販売等に従事する専門家が購入者に確認しておきたい基本的なポイントに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 何のためにその医薬品を購入しようとしているか(購入者側のニーズ、購入の動機)。
- b その医薬品を使用する人が医療機関で治療を受けていないか。
- c その医薬品を使用する人が相互作用や飲み合わせで問題を生じるおそれのある他の医薬品や食品を摂取していないか。
- d その医薬品を使用する人が過去にアレルギーや医薬品による副作用等の経験があるか。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	正	正	正	正
5	誤	誤	誤	正

問 16 次の記述は、薬害及びサリドマイドに関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 薬害は、医薬品が十分注意して使用されていれば、起こることはない。
- b サリドマイド訴訟とは、催眠鎮静剤等として販売されたサリドマイド製剤を妊娠している女性が使用したことにより、出生児に四肢欠損、耳の障害等の先天異常が発生したことに対する損害賠償訴訟である。
- c 1961年11月、西ドイツのレント博士がサリドマイド製剤の催奇形性について警告を発し、我が国では、同年中に販売停止及び回収措置が行われるなど、迅速な対応が行われた。
- d サリドマイドによる薬害事件によって、世界保健機関加盟国を中心に市販後の副作用情報の収集の重要性が改めて認識され、各国における副作用情報の収集体制の整備が図られることとなった。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 17 次の記述は、サリドマイドに関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a サリドマイド製剤を妊娠している女性が摂取しても、サリドマイドが血液-胎盤関門を通過して胎児に移行することはない。
- b 胎児は、サリドマイドによって血管新生が妨げられると細胞分裂が正常に行われず、器官が十分に成長しない。
- c 血管新生を妨げる作用は、サリドマイドの光学異性体のうち、一方の異性体（S体）のみが有する作用であり、もう一方の異性体（R体）にはないとされている。
- d 鎮静作用は、S体のみが有するとされている。

1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)



問 18 亜急性脊髄視神経症（スモン）に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 症状として、初期には腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じ、次第に下半身の痺れや脱力、歩行困難等が現れる。
- b 原因は、整腸剤として販売されていたキノホルム製剤を使用したことによるものである。
- c 視覚障害から失明に至ることはない。
- d スモン訴訟を一つの契機として、医薬品の副作用による健康被害の迅速な救済を図るため、医薬品副作用被害救済制度が創設された。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	正	正	正

問 19 ヒト免疫不全ウイルス（H I V）訴訟及びその後の取り組みに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a H I V 訴訟とは、白血病患者が、H I V の混入した原料血漿<sup>しょう</sup>から製造された血液凝固因子製剤の投与により、H I V に感染したことに対する損害賠償訴訟である。
- b H I V 訴訟の和解を踏まえ、国は、H I V 感染者に対する恒久対策として、エイズ治療研究開発センター及び拠点病院の整備や治療薬の早期提供等の様々な取り組みを推進してきている。
- c H I V 感染再発防止の取り組みの一つである感染症報告は、製薬企業に対して義務づけられていない。
- d 血液製剤の安全確保対策として、検査や献血時の問診の充実が図られるとともに、薬事行政組織の再編、情報公開の推進、健康危機管理体制の確立等がなされた。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	正	正	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 20 次の記述は、クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a CJD訴訟とは、脳外科手術等に用いられていたウシ乾燥硬膜を介してCJDに罹患したことに対する訴訟である。
- b ウイルスの一種であるプリオンが原因とされている。
- c プリオンが脳の組織に感染し、次第に認知症に類似した症状が現れ、死に至る重篤な神経難病である。
- d プリオン不活化のための十分な化学的処理が行われなまま製品として流通し、脳外科手術で移植された患者にCJDが発生した。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 21 解熱鎮痛薬に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 服用期間中は、アルコールと一緒に服用した方が効果的である。
- 2 空腹時に服用することとなっている場合が多い。
- 3 多くの解熱鎮痛薬には、体内におけるプロスタグランジンの産生を抑える成分が配合されている。
- 4 坐薬と内服薬の併用が推奨されている。

問 22 次のかぜ薬に配合される成分のうち、依存性がある成分として正しいものの組み合わせはどれか。

- a アセトアミノフェン
- b アリルイソプロピルアセチル尿素
- c コデインリン酸塩
- d エチルシステイン塩酸塩

1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

問 23 かぜ薬に配合される成分に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 クロルフェニラミンマレイン酸塩は、痰の切れをよくする成分（去痰成分）である。
- 2 メチルエフェドリン塩酸塩は、鼻汁分泌やくしゃみを抑える成分（抗コリン成分）である。
- 3 エテンザミドは、発熱を鎮め、痛みを和らげる成分（解熱鎮痛成分）である。
- 4 ブロモバレリル尿素は、胃酸を中和する成分（制酸成分）である。

問 24 次の 1～5 で示されるかぜ薬に配合される成分のうち、眠気を引き起こすものはどれか。

- 1 ジフェンヒドラミン塩酸塩      2 ブロムヘキシン塩酸塩
- 3 アセトアミノフェン      4 ビタミン B 1      5 ケイ酸アルミニウム

問 25 次の記述は、神経質・精神不安・不眠等の症状の改善を目的とした漢方処方製剤に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 酸棗仁湯は、比較的短期間服用されることが多い。
- b 抑肝散は、心不全を引き起こす可能性がある。
- c 加味帰脾湯は、体力中等度以上の人に適すとされる。
- d 柴胡加竜骨牡蛎湯は、胃腸が弱く下痢しやすい人では不向きとされている。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 26 カフェインに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 脳に軽い興奮状態を引き起こし、一時的に眠気や倦怠感を抑える効果がある。
- b 「短期間の服用にとどめ、連用しないこと」という注意喚起がなされている。
- c 乳児は肝臓が未発達なため、代謝にはより多くの時間を要する。
- d 胃酸過多の人や胃潰瘍のある人、心臓病のある人は、服用を避ける。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	誤	誤

問 27 鎮暈薬（乗物酔い防止薬）に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a つわりに伴う吐きけへの対処として使用することは適当でない。
- b 抗ヒスタミン成分による眠気は、カフェインの配合によって解消される。
- c ジメンヒドリナートは、専ら乗物酔い防止薬に配合される抗ヒスタミン成分である。
- d アミノ安息香酸エチルが配合されている場合には、6歳未満への使用は避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 28 次の記述は、鎮咳去痰薬に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a ジヒドロコデインリン酸塩は、非麻薬性鎮咳成分と呼ばれる。
- b デキストロメトルファン臭化水素酸塩は、中枢神経系に作用して咳を抑える成分である。
- c グアイフェネシンは、痰の中の粘性タンパク質を溶解・低分子化して粘性を減少させる。
- d カルボシステインは、粘液成分の含量比を調整し痰の切れを良くする。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 29 <sup>がい たん</sup> 鎮咳去痰薬の生薬成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ゴミシは、去痰<sup>たん</sup>作用を期待して用いられる。
- b セキサンは、去痰<sup>たん</sup>作用を期待して用いられる。
- c オンジは、鎮咳<sup>がい</sup>作用を期待して用いられる。
- d オウヒは、去痰<sup>たん</sup>作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	正	誤	正
4	誤	誤	誤	誤
5	正	誤	正	正

問 30 次の 1～5 で示される成分のうち、喉の腫れの症状を鎮めることを目的として用いられるものはどれか。

- 1 デカリニウム塩化物
- 2 クロルヘキシジングルコン酸塩
- 3 トラネキサム酸
- 4 クロルヘキシジン塩酸塩
- 5 ベンゼトニウム塩化物

問 31 第 1 欄の記述は、口腔<sup>くう</sup>咽喉薬や含嗽<sup>そう</sup>薬に含まれるヨウ素系殺菌消毒成分に関するものである。( ) の中に入れるべき字句について、第 2 欄に掲げる臓器のうち最も適するものはどれか。なお、( ) 内はすべて同じ字句が入る。

第 1 欄

ヨウ素系殺菌消毒成分が口腔<sup>くう</sup>内に使用される場合、結果的にヨウ素の摂取につながり、( ) におけるホルモン産生に影響を及ぼす可能性がある。( ) 疾患の診断を受けた人では、その治療に悪影響(治療薬の効果減弱など)を生じるおそれがあるため、使用する前にその適否につき、治療を行っている医師又は処方薬の調剤を行った薬剤師に相談がなされるべきである。

第 2 欄

- 1 肝臓
- 2 腎臓
- 3 脾臓<sup>すい</sup>
- 4 副腎
- 5 甲状腺

問 32 次の 1～5 で示される胃粘膜保護・修復成分のうち、透析療法を受けている人では使用を避ける必要があるものはどれか。

- 1 アズレンスルホン酸ナトリウム      2 アルジオキサ      3 ソファルコン  
4 テプレノン      5 メチルメチオニンスルホニウムクロライド

問 33 次の記述は、健胃成分に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 日本薬局方記載のセンブリ末は、健胃薬のほか止瀉薬としても用いられる。  
b 生薬成分が配合された健胃薬は、散剤をオブラートで包む等、味や香りを遮蔽する方法で服用すると効果が期待できる。  
c カルニチン塩化物は、胃の働きの低下や食欲不振の改善を期待して、胃腸薬や滋養強壮保健薬に用いられる。  
d 胆汁末や動物胆（ユウタンを含む。）は、心臓の働きを高める作用もある。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 34 腸の薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 整腸薬は、腸の調子や便通を整える（整腸）、腹部膨満感、軟便、便秘に用いられることを目的とする医薬品である。  
b 瀉下薬は、便秘症状及び便秘に伴う肌荒れ、頭重、のぼせ、吹き出物、食欲不振、腹部膨満、腸内異常発酵、痔の症状の緩和、又は腸内容物の排除に用いられることを目的とする医薬品である。  
c 止瀉薬は、下痢、食あたり、吐き下し、水あたり、下り腹、軟便に用いられることを目的とする医薬品である。  
d 整腸薬は、医薬部外品として製造販売されている製品もあるが、それらは人体に対する作用が緩和なものとして、配合できる成分やその上限量が定められていない。

- |   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 4 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |
| 5 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |

問 35 生活習慣の改善と高コレステロール改善薬に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 糖質や脂質を多く含む食品の過度の摂取を控える、日常生活に適度な運動を取り入れる等、生活習慣の改善を図ることが重要である。
- 2 高コレステロール改善薬の使用による対処は、食事療法、運動療法の補助的な位置づけである。
- 3 高コレステロール改善薬は、ウエスト周囲径（腹囲）を減少させるなどの<sup>そう</sup>痩身効果を目的とする医薬品である。
- 4 生活習慣の改善を図りつつ、高コレステロール改善薬をしばらくの間（1～3ヶ月）使用を続けても検査値に改善が見られない時には、遺伝的又は内分泌的要因も疑われる。

問 36 貧血用薬（鉄製剤）に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 鉄欠乏性貧血に対して不足している鉄分を補充し、造血機能の回復を図る医薬品である。
- 2 服用すると便が黒くなることがある。
- 3 補充した鉄分を利用してヘモグロビンの産生を助ける目的で、硫酸銅が配合されている場合がある。
- 4 消化器系への副作用を軽減するには、食前に服用することが望ましい。

問 37 次の記述は胃腸鎮痛鎮<sup>けい</sup>痙薬に配合される成分に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 抗コリン成分は、胃痛、腹痛、さしこみ（<sup>せん</sup>痙痛、<sup>しゃく</sup>癢）を鎮める（鎮痛鎮<sup>けい</sup>痙）効果を期待して使用される。
- b パパペリン塩酸塩は、消化管の平滑筋に直接働いて胃液分泌を抑える作用を示す。
- c ブチルスコポラミン臭化物は、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることが知られている。
- d オキセサゼインは、胃液分泌を抑える作用はない。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 38 駆虫薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の駆虫薬が対象とする寄生虫は、回虫と吸虫である。
- b 再度駆虫を必要とする場合には、1ヵ月以上間隔を置いてから使用することとされている。
- c 複数の駆虫薬を併用すると駆虫効果が高まる。
- d 消化管からの駆虫成分の吸収は好ましくない全身作用（頭痛、めまい等の副作用）を生じる原因となる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	正

問 39 第1欄の記述は、循環器用薬の代表的な配合成分に関するものである。第1欄の記述に該当する配合成分として正しいものは第2欄のどれか。

第1欄

ビタミン様物質の一種で、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。

第2欄

- |                   |           |           |
|-------------------|-----------|-----------|
| 1 コウカ             | 2 ユビデカレノン | 3 ヘプロニカート |
| 4 イノシトールヘキサニコチネート | 5 ルチン     |           |



問 40 第 1 欄の記述は、脂質異常症に関するものである。( )の中に入れるべき字句は第 2 欄のどれか。

第 1 欄

医療機関で測定する検査値として、LDLが140mg/dL以上、HDLが40mg/dL未満、中性脂肪が( )mg/dL以上のいずれかである状態を、脂質異常症という。

第 2 欄

1 40      2 50      3 130      4 140      5 150

問 41 外用痔疾用薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a リドカインは、局所麻酔成分として痔に伴う痛み・痒みを和らげることを目的として用いられる。
- b グリチルレチン酸は、強力な抗炎症作用を示す成分として配合されている場合がある。
- c ジフェンヒドラミンは、抗ヒスタミン成分として痔に伴う痒みを和らげることを目的として配合されている場合がある。
- d タンニン酸は、痔疾患に伴う局所の感染を防止することを目的として配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	正	誤
5	正	誤	正	誤

問 42 女性の月経に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 血の道症とは、臓器・組織の形態的異常があり、抑鬱や寝つきが悪くなる、神経質、集中力の低下等の精神神経症状が現れる病態のことである。
- b 月経前症候群は、加齢とともに卵巣からの女性ホルモンの分泌が減少していき、やがて月経が停止して、妊娠可能な期間が終了することをいう。
- c 月経周期は、扁桃体で産生されるホルモンと、卵巣で産生される女性ホルモンが関与する。
- d 女性の月経は、子宮の内壁を覆っている膜（子宮内膜）が剥がれ落ち、血液（経血）と共に排出される生理現象である。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 43 婦人薬の相互作用、受診勧奨に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 1ヶ月位使用して症状の改善がみられず、日常生活に支障を来すようであれば、医療機関を受診するなどの対応が必要である。
- b 内服で用いられる婦人薬では、通常、複数の生薬成分が配合されている場合が多く、他の婦人薬、生薬成分を含有する医薬品が併用された場合、効き目が強すぎたり、副作用が起こりやすくなるおそれがある。
- c 更年期は様々な病気が起こりやすい年齢でもあり、そのような原因が見いだされた場合には、その治療が優先される必要がある。
- d 一般の生活者においては、「痔の薬」と「更年期障害の薬」等は影響し合わないとの誤った認識がなされることも考えられるので、医薬品の販売等に従事する専門家において適宜注意を促していくことが重要である。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	正	誤
4	正	正	正	正
5	誤	誤	正	誤

問 44 内服アレルギー用薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a アレルギー（過敏反応）は、好中球からヒスタミンやプロスタグランジンが遊離することにより起こる。
- b 内服アレルギー用薬は、ヒスタミンの働きを抑える作用を示す成分（抗ヒスタミン成分）を主体として配合されている。
- c 抗ヒスタミン成分として、プソイドエフェドリン塩酸塩が配合されている場合がある。
- d クロルフェニラミンマレイン酸塩を含む内服薬を服用後は、車の運転は避けることとされている。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 45 内服アレルギー用薬に用いられる主な漢方処方製剤に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 茵蔯蒿湯、十味敗毒湯、消風散、当帰飲子は皮膚の症状を主とする人に適すとされる。
- b 葛根湯加川芎辛夷、小青竜湯、荊芥連翹湯、辛夷清肺湯は鼻の症状を主とする人に適すとされる。
- c 荊芥連翹湯はまれに重篤な副作用として、肝機能障害、間質性肺炎が現れることが知られている。
- d 葛根湯加川芎辛夷は、比較的体力のあるものの鼻づまり、蓄膿症、慢性鼻炎に適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	誤

問 46 鼻に用いる薬の成分及び受診勧奨に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の鼻炎用点鼻薬の対応範囲は、蓄膿症などの慢性のものであり、急性又はアレルギー性の鼻炎及びそれに伴う副鼻腔炎は対象となっていない。
- b 鼻粘膜を清潔に保ち、細菌による二次感染を防止することを目的として、ベンゼトニウム塩化物のような殺菌消毒成分が配合されている場合がある。
- c フェニレフリン塩酸塩は、交感神経系を刺激して鼻粘膜を通っている血管を拡張させることにより、鼻粘膜の充血や腫れを和らげる。
- d クロモグリク酸ナトリウムは、まれに重篤な副作用として、アナフィラキシーを生じることがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	誤	誤	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 47 眼科用薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ナファゾリン塩酸塩は結膜を通っている血管を収縮させて目の充血を除去することを目的として配合される。
- b コンドロイチン硫酸ナトリウムは、細菌感染によるものもらいの症状を改善することを目的として配合される。
- c クロモグリク酸ナトリウムは細菌感染による眼瞼炎の症状を改善することを目的として配合される。
- d ホウ酸は結膜や角膜の乾燥を防ぐことを目的として配合される。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問 48 皮膚に用いる薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 局所性の副作用として、適用部位に発疹・発赤、痒みが現れることがある。
- b 殺菌消毒薬は、日常の生活において生じる、比較的小さなきり傷、擦り傷、掻き傷等の創傷面の化膿を防止すること、又は手指・皮膚の消毒を目的として使用される。
- c 非ステロイド性抗炎症成分は、喘息の副作用を起こしたことがある人にも使用を勧めることができる。
- d ステロイド性抗炎症成分を含む、外皮用の一般用医薬品は、広範囲に生じた皮膚症状や、慢性の湿疹・皮膚炎を対象とするものである。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問 49 次の記述は、皮膚に用いる薬の配合成分に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a サリチル酸は角質成分を溶解することにより角質軟化作用を示す。
- b 尿素は角質層の水分保持量を高め、皮膚の乾燥を改善することを目的として用いられる。
- c グリセリンは皮膚の角質層を構成するケラチンを変質させることにより、角質軟化作用を示す。
- d ヘパリン類似物質は抗菌作用を有し、化膿性皮膚疾患に用いられる。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 50 第 1 欄の記述は、抗真菌成分に関するものである。第 1 欄の記述に該当する成分として正しいものは第 2 欄のどれか。

第 1 欄

( ) は、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げることにより、その増殖を抑える。

第 2 欄

- 1 バシトラシン            2 テルビナフィン塩酸塩            3 ピロールニトリン  
4 スルファジアジン    5 クロラムフェニコール

問 51 次の記述は、みずむし等に対する剤形の選択及び抗真菌作用を有する配合成分に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 皮膚が厚く角質化している部分には、クリーム剤が適している。  
b 液剤は有効成分の浸透性が高いが、患部に対する刺激が強い。  
c 患部が化膿<sup>のう</sup>している場合には、抗菌成分を含んだ外用剤を使用する等、化膿<sup>のう</sup>が治まってから使用することが望ましい。  
d 湿疹<sup>しん</sup>か皮膚糸状菌による皮膚感染かはっきりしない場合には、抗真菌成分が配合された医薬品を使用すべきである。

- 1 ( a、 b )            2 ( a、 d )            3 ( b、 c )            4 ( c、 d )

問 52 歯槽膿漏薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 炎症を起こした歯周組織からの出血を抑える作用を期待して、トコフェロールコハク酸エステルカルシウムが用いられる。
- b 歯肉溝での細菌の繁殖を抑えることを目的として、セチルピリジニウム塩化物が配合されている場合がある。
- c 歯周組織の炎症を和らげることを目的として、フィトナジオンが用いられる。
- d 炎症を起こした歯周組織の修復を促す作用を期待して、アラントインが配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

問 53 口内炎用薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 口腔粘膜の炎症を和らげることを目的として、グリチルリチン酸ニカリウムが用いられる。
- b 患部からの細菌感染を防止することを目的として、クロルヘキシジン塩酸塩が配合されている場合がある。
- c 口腔粘膜の炎症には、ステロイド性抗炎症薬の長期連用が推奨される。
- d 口腔粘膜の組織修復を促す作用を期待して、アズレンスルホン酸ナトリウム（水溶性アズレン）が配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	正	誤

問 54 ニコチン及び禁煙補助剤に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 禁煙補助剤は、ニコチンを有効成分とする医薬品で、カプセル剤とパッチ製剤がある。
- b パッチ製剤は、1日1回皮膚に貼付することによりニコチンが皮膚を透過して血中に移行する。
- c タバコの煙に含まれるニコチンは、脳の情動を司る部位に働いてリラックス効果などをもたらす。
- d 禁煙補助剤のニコチン量は極めて少量のため、妊婦にも使用可能である。

1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

問 55 次の記述は、ビタミン主薬製剤に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a ビタミンA主薬製剤は、骨歯の発育不良、くる病の予防に用いられる。
- b ビタミンB1主薬製剤は、口角炎、口唇炎、口内炎、皮膚炎、にきびなどの症状の緩和に用いられる。
- c ビタミンC主薬製剤は、しみ、そばかす、日焼けによる色素沈着の症状の緩和、歯ぐきからの出血の予防に用いられる。
- d ビタミンE主薬製剤は、肩・首すじのこり、手足のしびれ・冷え、しもやけの症状の緩和に用いられる。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)



問 56 次の記述は代表的な漢方処方製剤に関するものである。これらの適用となる症状・体質を示す製剤の名称について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 体力が充実して脇腹からみぞおちあたりにかけて苦しく、便秘の傾向があるものの胃炎、常習便秘、高血圧や肥満に伴う肩こり・頭痛・便秘、神経症、肥満症に適すとされる。
- b 体力中等度以上で、赤ら顔でときにのぼせがあるもののにきび、顔面・頭部の湿疹・皮膚炎、赤鼻（酒さ）に適すとされる。
- c 体力中等度以下で、疲れやすく、汗のかきやすい傾向があるものの肥満に伴う関節痛、むくみ、多汗症、肥満（筋肉にしまりのない、いわゆる水ぶとり）に適すとされる。
- d 体力中等度以上で、のぼせがみで顔色赤く、いらいらして落ち着かない傾向のあるものの鼻出血、不眠症、神経症、胃炎、二日酔い、血の道症、めまい、動悸、更年期障害、湿疹・皮膚炎、皮膚のかゆみ、口内炎に適すとされる。

	a	b	c	d
1	清上防風湯	黄連解毒湯	大柴胡湯	防已黄耆湯
2	防已黄耆湯	大柴胡湯	黄連解毒湯	清上防風湯
3	黄連解毒湯	防已黄耆湯	清上防風湯	大柴胡湯
4	大柴胡湯	清上防風湯	防已黄耆湯	黄連解毒湯

問 57 次の記述は代表的な生薬成分に関するものである。これらの適用となる薬用部位と期待する効果を示す生薬の名称について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a キンポウゲ科のハナトリカブト又はオクトリカブトの塊根を減毒加工して製したものを基原とする生薬であり、心筋の収縮力を高めて血液循環を改善する作用を持つ。
- b マメ科のクズの周皮を除いた根を基原とする生薬で、解熱、鎮痙等の作用を期待して用いられる。
- c サルノコシカケ科のマツホドの菌核で、通例、外層をほとんど除いたものを基原とする生薬で、利尿、健胃、鎮静等の作用を期待して用いられる。
- d アケビ科のアケビ又はミツバアケビの蔓性の茎を、通例、横切りしたものを基原とする生薬で、利尿作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	ブクリョウ	モクツウ	ブシ	カッコン
2	モクツウ	ブクリョウ	カッコン	ブシ
3	ブシ	カッコン	ブクリョウ	モクツウ
4	カッコン	ブシ	モクツウ	ブクリョウ

問 58 消毒薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 消毒薬が微生物を死滅させる仕組み及び効果は、殺菌消毒成分の種類、濃度、温度、時間、消毒対象物の汚染度、微生物の種類や状態などによって異なる。
- b クレゾール石鹼液は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対して比較的広い殺菌消毒作用を示すが、大部分のウイルスに対する殺菌消毒作用はない。
- c イソプロパノールは、結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対して殺菌消毒作用を示すが、ウイルスに対する殺菌消毒作用はない。
- d 次亜塩素酸ナトリウムは強い酸化力により、一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対して殺菌消毒作用を示す。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	正	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	誤	誤	正

問 59 殺虫剤に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ジクロルボスは、アセチルコリンエステラーゼと不可逆的に結合してその働きを阻害する。
- b ペルメトリンは、神経細胞に間接的に作用して神経伝達を阻害する。
- c プロポクスルは、アセチルコリンエステラーゼと不可逆的に結合して、その働きを阻害する。
- d メトプレンは、幼虫が<sup>さなぎ</sup>蛹になるのを妨げる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	正
4	正	正	正	正
5	誤	正	誤	誤

問 60 次の記述は、一般的な妊娠検査薬に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 高濃度タンパク尿や糖尿の場合、非特異的な反応が生じて擬陽性を示すことがある。
- b 検査の時期は、月経予定日が過ぎて概ね1週目以降に行うことが推奨されている。
- c 経口避妊薬を使用している人は、尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモンが検出されることはない。
- d 検査結果が陽性の場合、妊娠が確定される。

1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)